

根拠なきフェイク（偽）ニュースが政治の行方を左右する危うい社会が目の前にある。新聞やテレビさらにはネットの世界で、ジャーナリストは何をすべきか。NHK時代に「パナマ文書」の取材に中心にかかわり、トランプ政権下の米国を半年間にわたり見てきたジャーナリスト、立岩陽一郎さんにファクト点検の重要性と日米メディアの役割について語ってもらう。

# 「フェイクニュース vs 調査報道 ——日米メディアの課題」



講師：ジャーナリスト・立岩陽一郎さん（元 NHK 記者）

調査報道を専門とする認定 NPO 運営「ニュースのタネ」編集長。1991 年一橋大学卒業。NHK でテヘラン特派員、社会部記者、国際放送局デスクとして主に調査報道に従事。政府が随意契約を恣意的に使っている実態を暴き随意契約原則禁止のきっかけを作ったほか、大阪の印刷会社で化学物質を

原因とした胆管癌被害が発生していることをスクープ。

「パナマ文書」取材に中心に関わった後に NHK を退職。公益法人「政治資金センター」理事として政治の透明化に取り組む。

毎日放送「ちちんぷいぷい」のレギュラー・コメンテータ。

J C J 12 月集会

12月/9日  
(土)

主催：日本ジャーナリスト会議

〒101-0051 千代田区神田神保町 1-18-1 千石屋ビル 402（電話 03・3291・6475）

共催：法政大学・図書館司書課程 アジア太平洋メディア情報リテラシー教育センター (AMILEC)

午後 2 時から 5 時まで

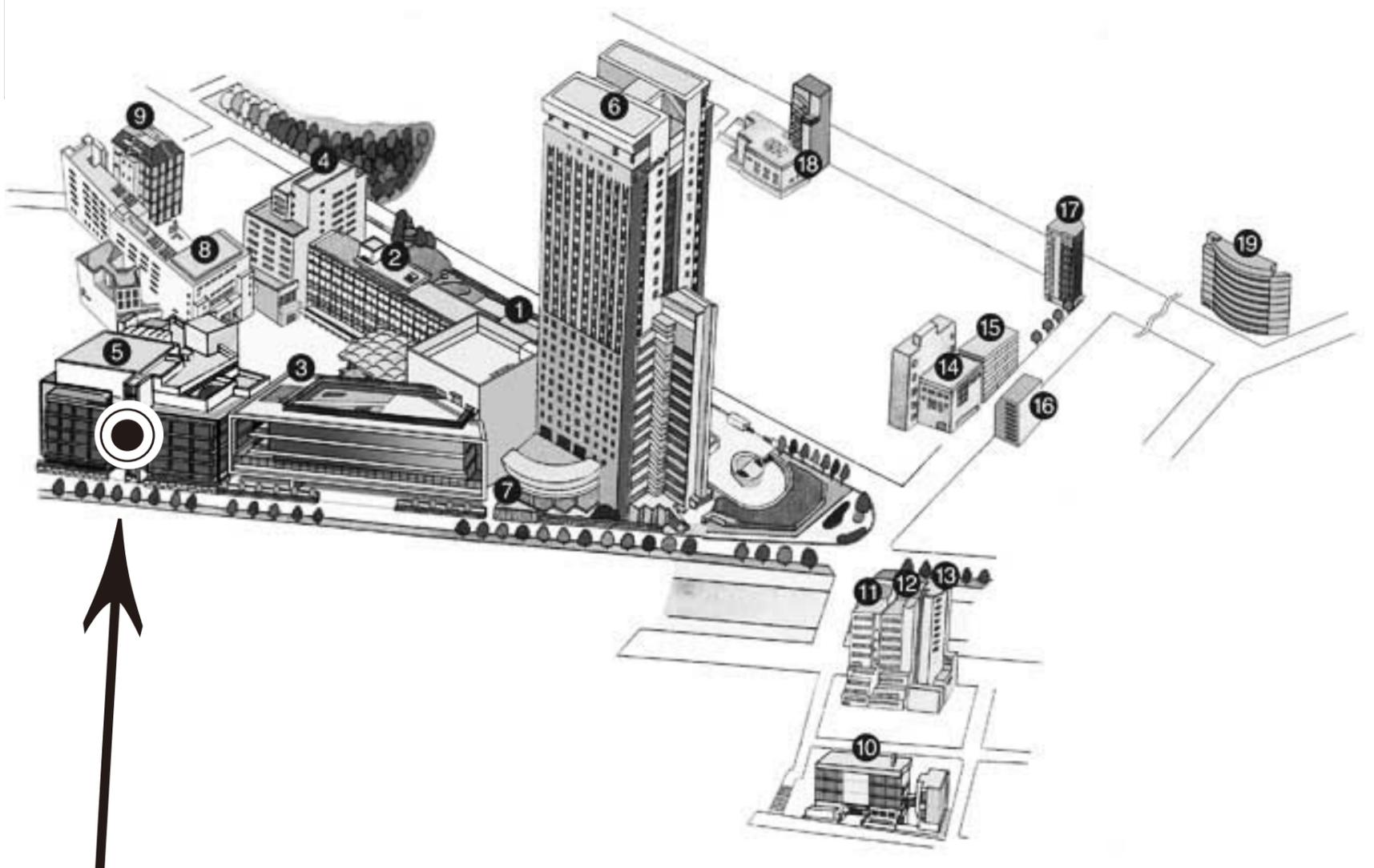
会場：法政大学（市ヶ谷キャンパス）の外濠校舎 5 階・S505 教室  
東京都千代田区富士見 2-17-1

地図は裏面

JR・地下鉄の市ヶ谷駅  
または飯田橋駅から徒歩 10 分

参加費：1000 円（学生と法政大学教職員は無料）





会場：法政大学（市ヶ谷キャンパス）の  
 外濠校舎5階・S505教室  
 東京都千代田区富士見 2-17-1